P 076
2026年10月12日
9:30～11:00
78.75*140
⇒90＊160

市民向け講座「薬害サリドマイド被害者の現状を知り、国民として安全に医療を受けるための役割を考える」薬剤師の取り組み

中村　由喜[1)]　百瀬　美紀[1)]　薬袋　貴美[1)]　渡辺　香織[1)]　保坂　昌彦[1)]
中澤　奈緒子[2)]　浅川　由実子[1)]　飯島　久子[1)]　増山　ゆかり[3)]
[1)]TAYA研究会　[2)]データインデックス株式会社
[3)]薬害サリドマイド被害者団体One Team

背景

- 薬害被害は繰り返され、その薬害被害を繰り返さないために様々な医薬行政の制度が創設された。薬害サリドマイド事件はすでに発生から60年以上が経過し、現在の被害者の現状を知る機会はあまりない。薬害サリドマイド事件は副作用報告制度、開発段階での動物での催奇形性試験義務化、1967年「医薬品の製造承認等に関する基本方針」により医療用医薬品、一般用医薬品の区別の導入など、国民の安全を確保するための「いしずえ」となる薬害被害である。薬害肝炎事件からは「薬害再発防止のための医薬品行政等の見直しについて（最終提言）」による薬機法の改訂により「医療従事者の責務や国民の役割」が示された。
- 患者安全のため、2019年より薬局では経過後フォロー（調剤した薬剤の適正な使用のため必要があると認める場合、患者の薬剤の使用状況を継続的に把握し、必要な薬学的知見に基づく指導を実施する）が義務化された。また現在マイナンバーカードを活用することで服用中の医薬品が確認できる。
- しかし薬機法にある「国民の役割」については浸透していない。国民である地域住民は、安全に医療を受けるための自身の行動を考える機会を必要としている。

目的

- 【目的】 TAYA研究会は「薬害被害から学ぶ活動」として、薬剤師WEB研修、医療を目指す高校生が「医療人の資質を考える」ワークショップ、小学6年生と保護者向け「薬教育」において「国民の役割」を伝えることを継続してきた。「薬害被害　今、知ってほしい」では、市民を対象に、薬害サリドマイド被害者の現状を見て聞いて生活を知り、自分ごととして医療を安全に受けるため「国民の役割を果たすことを考える」を目的とした講座を開催した。
- 薬剤師の地域活動の一環としての市民向け講座の開催内容、市民の方々の感想を報告する。

概要

- イベント主旨：薬害被害について知るだけにとどまらないこと、そこから医療を受ける「国民の役割」を学んで行動することを伝える。市民の方々からも意見を伺い、参加者相互で考えを深める。
- 参加者：市民25人、薬剤師8人、被害者2人、　周知：チラシを作成し薬局で配布・新聞でのイベント情報を活用
- 時間配分：全体150分で計画

1.薬害サリドマイド被害者増山ゆかりさんから、サリドマイド事件の概要、60年以上経過した被害者の方々のこれまでの人生と現状、ドイツと日本での人権としての救済について講演（60分）
2.薬剤師から「国民の役割・・医療をうける私たちにできること」について講演（30分）
3.参加者の方々の意見交換（50分）とし、HPVワクチン副反応被害者ご家族からの話しを聴く時間を設定



薬剤師から、患者安全のための「国民の役割」資料

医療をうける私たちにできること

1．繰り返されている薬害
2．薬害被害から創設された薬事行政
3．医療従事者の責務
4．薬剤師がお薬をお渡しした後に確認すること
5．国民の役割
6．「賢い患者になりましょう」COMLの活動
7．マイナンバーカード/電子処方箋の活用
8．医療安全

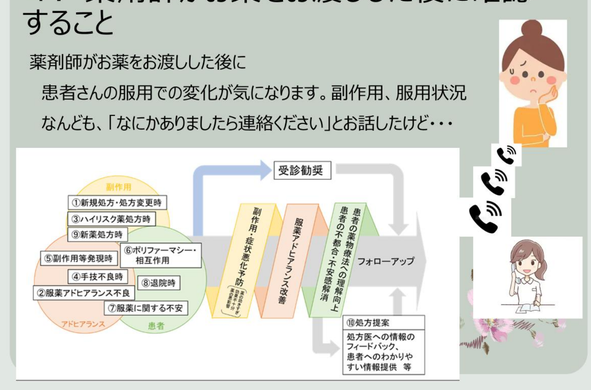
3．医療従事者の責務

（医薬関係者の責務）第一条の五
医薬関係者は、医薬品等の有効性及び安全性その他これらの適正な使用に関する知識と理解を深めるとともに、適正な使用に関する事項を正確かつ適切な情報の提供に努めなければならない。
2　薬局の薬剤師は、薬剤又は医薬品の適切かつ効率的な提供、地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する情報の提供、医療を受ける者の薬剤又は医薬品の使用に関する情報を他の医療提供施設に提供することにより医療提供施設相互間の業務の連携の推進に努める

市販後のリスク管理　「リスク最小化計画実施制度」の活用
患者とのリスクコミュニケーションの円滑な実施　経過後フォロー
早期に患者に告知することにより適切な治療を受けることができ、患者が副作用等の発現を知り得る　医薬品情報・服薬指導
・診療明細の患者への発行の義務化　診療明細書を見て医療を確認・医療機関の安全管理責任者を中心とした安全対策の体制強化
・医薬品業務手順書の作成と遵守　薬局ヒヤリハット報告事業への参画・総合機構の情報配信サ ービス　PMDAからの情報の受取

4．薬剤師がお薬をお渡しした後に確認すること

薬剤師がお薬をお渡しした後に
患者さんの服用での変化が気になります。副作用、服用状況なんども、「なにかありましたら連絡ください」とお話したけど・・・



5．国民の役割

（国民の役割）第一条の六
国民は、医薬品等を適正に使用するとともに、これらの有効性及び安全性に関する知識と理解を深めるよう努めなければならない。

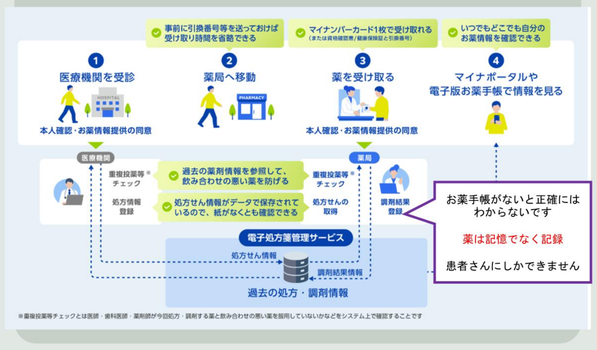


6．賢い患者になりましょう
NPO認定法人ささえあい医療人権センターC

- 私たち一人ひとりが「いのちの主人公」「からだの責任者」
- そんな自覚を持った「賢い患者になりましょう」を合言葉に、COMLは1990年9月に活動をスタートしました
- 患者が自立・成熟し、主体的に医療参加することを目指しています。
- 患者と医療者が対立するのではなく、“協働” する医療の実現がCOMLの願いです。

①伝えたいことはメモして準備
②対話の始まりはあいさつから
③よりよい関係づくりはあなたにも責任が
④自覚症状と病歴はあなたの伝える大切な情報
⑤これからの見通しを聞きましょう
⑥その後の変化も伝える努力を
⑦大事なことはメモをとって確認
⑧納得できないときは何度でも質問を
⑨医療にも不確実なことや限界がある
⑩治療方法を決めるのはあなたです

7．マイナンバーカード/電子処方箋で可能になる医療安全



結果　　参加者の感想

・衝撃を受けました。外見ではなく、あのお身体で何でもこなしているお姿にです。どれ程の努力をしてこられたのだろうと。想像を絶します。
・国と製薬会社と、やはり利害ですよね。被害者の方はとてもエネルギッシュで驚きました！「自分ごとだから真剣にここまで勉強出来たんだ」という話は胸に刺さりました。
・63年の人生を生きてこられた当事者である方から、私の目の前で、直接話が聞けたことは、何物にも勝る貴重な機会でした。感謝いたします。開会前に、増山さんが参加者の座席のところを歩いて、身をかがめながら、あの小さな手でお菓子を配ってくださり「どうぞ」と言われたのには、びっくりもし、心の中で涙を禁じえませんでした。もちろん、単なる同情心ではなく、なぜ、このような存在を人間は作り出してしまうのか、というやり場のない切ない気持ちでありました。
・薬害被害をうけて、それを引け目に感じてしまうなんてとても悲しいことである
・被害者の方の生き方そのものにふれて、自分自身を振り返りました。人権意識の低い国、儲け主義の製薬企業へのいきどおりをあらたにしました。残る人生の期間はもうあまりないけれどがんばりたいと思います
・サリドマイドのことは聞いていましたが、これほど貴重なお話しを聞くことができて感謝しています
・薬害被害、サリドマイド被害についての知識が薄く、断片的なものだったと思い、これまでの、まだ続く苦労を思うと胸が痛みます。私たちはもっと学び、周りの人にシェアしていかないと思いました。
・政治や法律の道を志しています。貴重なお話しを伺いました。制度の整備などが必要だと考えます。健常者として生まれたからこそ関心を持ち、考え続けなければならない責任があると思います。
・日本では薬害を認める考えや制度が不足していると感じ、人権侵害にも匹敵すると思った。薬やワクチンの一部の方々におこったリスクに「仕方がない」という考え方や目をつぶるようなことがあってはならないと思った。どのひとりも人間であり、人権があることを忘れてはならないと思った。
強い生き方が素敵でした。強い意志と行動が何かを変えるのに、たとえ変わらなかったとしても未来につながると思った。
・日常生活の何げない行動をこなしてくのに、どんなに工夫され、ご苦労されてきただろうと思います。体の状態を受けいれて乗り越えて、明るく前向きに使命感をもって行動されている姿を見て心を動かされました。私も自分にできることは何か、考えて行動したいと思います。お身体に気をつけて、是非活動を続けてほしいです。応援しています。
・薬をつくったドイツに乗り込んで話したこと、すごい。
・一個人の人間として、幸福に生きたい思いを表現し続ける意思、思いの強さに驚きもし、私たち一人一人が何ができるかを考えさせられた。
・知ることの大切さを感じました。日本は豊かな国なのに、どこか貧しさも感じます
・1950年代生まれの私はかなり前に知った被害でした。大病をして伏せている時に口と足で描く芸術にふれ前を向いて生きることを教えていただきました。前向きに生きる姿をみて、こうして前向きになれた者がいることをお伝えします。
・はきはき話されるお話しをきいているとサリドマイド被害者であるなど関係ない。日常生活の何げないことから、どんなにご苦労されてきたことかと思いをはせます。行動力に驚かされました。私にできることを頑張ろうと思いました。
・あなたが求めるのは救済ではなく人権だ。自分の我慢が誰かの我慢につながっている。自分が我慢しないで誰かを助けたい。すごい覚悟だ。

考察・今後

- 参加者の感想を報告し検討する。①「薬害サリドマイド被害者のお話し」からは、薬害被害者の生きてきた日々に思いをはせ、日常生活の中のご苦労を知ること、身体的不調などの現状を知ることができた。そこから自分を振り返りなにかできることを考えるという感想が多くあった。
- ②「医療を受けるときに気をつけること」と進行については、「自分の体は自分の意思で、そして医師と上手に付き合う事」「とてもわかりやすく無駄ない進行でした。」との感想があり、医療を受ける時の心構えにつて考えたとのこと意見が聞かれた。
- 被害者の声を直接聴く機会はほとんどなく、薬害サリドマイド事件は60年以上前のことで、過去のことになりつつある。社会の中で取り上げられることが限られる、その後の薬害被害者の声を深く心で聴くこと、そこに医療を受ける「国民の役割」を積極的に伝えることが、参加者の行動変容につながると考える。地域活動として薬剤師同士が連携し、協力し、このような機会をもうけていくことは、薬剤師にしかできないことだと考える。
- 薬害被害者の方々は「加害者にも、被害者にもならないでほしい」と訴える。薬剤師の責務は「薬害を起こさない」ことである。

「キーワード」 薬害サリドマイド被害　国民の役割　地域活動

日本薬剤師会学術大会　2026　新潟

第59回日本薬剤師会学術大会
本報告は教育活動として実施し、臨床研究にあたらないと判断している
本発表に関連して共同演者含め開示すべき利益相反性に該当する項目はありません